

授 業 概 要

科目名 福祉レクリエーション活動援助法 I		授業の種類 講義	授業担当者 西脇 秀和 (実務経験者)
授業回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1学年 後期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉レクリエーションの理論、学習の意義について理解を深めることをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 福祉レクリエーションの歴史、法体系などを理論的に学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 福祉レクリエーションの基本的な理論を理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>I 福祉レクリエーション支援における自己理解を深める</p> <p>1 自己紹介から自己理解を深める</p> <p>2 SP (サブパーソナリティ) トランプをとおして自己理解・他者理解を深める①</p> <p>3 SP (サブパーソナリティ) トランプをとおして自己理解・他者理解を深める②</p> <p>4 SP (サブパーソナリティ) トランプをとおして自己理解・他者理解を深める③</p> <p>II 楽しさを追い求めることを支える</p> <p>5 福祉レクリエーションと楽しさを</p> <p>6 楽しさの追及を支える支援者の営み、支援者の役割と心構え、そして技術</p> <p>III 楽しさの支援の根拠</p> <p>8 個人支援の手順～APIE プロセス～</p> <p>9 総合的な支援の流れ～TR (セラピューティック・レクリエーション) サービスモデル～</p> <p>10 行動変容と自己効力感</p> <p>IV 楽しさの追及の支援と実際</p> <p>11 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例</p> <p>12 障害児・障害者を対象にした福祉サービスでの実践例</p> <p>13 子育てサービスでの福祉サービスでの実践例</p> <p>13 レクリエーションのあゆみ・レク・福レク運動と資格制度①</p> <p>14 レクリエーションのあゆみ・レク・福レク運動と資格制度②</p> <p>15 終講試験 (解答解説含む)</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>1 「楽しさの追及を支える理論と支援の方法」公益財団法人 日本レクリエーション協会</p> <p>[参考文献]</p> <p>1 「GWT 初級アドバイザー教本」日本 GWT 協会</p> <p>2 「福祉レクリエーション総論」中央法規出版</p> <p>3 「福祉レクリエーション援助の方法」中央法規出版</p> <p>4 「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>終講試験による成績が60点以上の者に単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

科目名 福祉レクリエーション活動援助法Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 西脇 秀和（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 1学年 後期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉レクリエーション・ワーカーとしての感性を磨き、介護実践に活用できる技術（計画から実施、振り返りまで）の習得をねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>主に集団に対する福祉レクリエーション援助の技法などを磨くとともに、ワーカーとしての自己を成長させていく授業である。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>集団レクリエーション活動の計画から振り返りまでを行うことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害者スポーツ演習 I 2 障害者スポーツ演習 II 3 障害者スポーツ演習 III 4 障害者スポーツ演習 IV 5 アセスメントの考え方と方法 6 グループを利用した生活の活性化と交友関係の構築と展開 7 日本の伝統文化を体験する I 8 日本の伝統文化を体験する II 9 日本の伝統文化を体験する III 10 日本の伝統文化を体験する IV 11 音楽活動とレクリエーション 12 グループを介したレクリエーション支援演習① 13 グループを介したレクリエーション支援演習② 14 グループを介したレクリエーション支援演習③ 15 グループを介したレクリエーション支援演習④ 			
<p>[使用テキスト]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「楽しさの追及を支えるための介入技術」 公益法人 日本レクリエーション協会 <p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「福祉レクリエーション総論」中央法規出版 2 「福祉レクリエーション援助の方法」中央法規出版 3 「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規出版 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況及び提出物（レポート等） 2 居宅介護実習 I 現場実習評価 <p>1、2の総合評価が60点以上の者に単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

科目名 福祉レクリエーション活動援助法Ⅲ		授業の種類 講義	授業担当者 西脇 秀和（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2学年 通年	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉レクリエーション活動の援助方法などについての知識を深めることをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 福祉レクリエーション活動を展開する過程（アセスメント、プログラム計画、実践、振り返り）と考え方などについて実践を踏まえながら学習をする。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 福祉レクリエーションの実践を理論的側面から捉えることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>I 福祉レクリエーション援助のための技術と方法</p> <p>1 個別レクリエーション援助のための方法Ⅰ</p> <p>2 個別レクリエーション援助のための方法Ⅱ</p> <p>3 福祉レクリエーション援助と社会資源の活用</p> <p>II 医療・福祉現場におけるレクリエーション援助の考え方と方法</p> <p>4 医療・福祉現場におけるレクリエーション援助の考え方と方法</p> <p>III 福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ</p> <p>5 レクリエーション財の考え方、行動分析</p> <p>6 障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ</p> <p>IV 福祉レクリエーション援助のための対人援助技術</p> <p>7 援助者の人間的資質・援助者のためのコミュニケーション技法</p> <p>8 援助と非言語コミュニケーション</p> <p>9 援助者の人間開発トレーニング</p> <p>IV 根拠を持ったプログラムや行事の計画立案や運営の方法</p> <p>10 「事業所の使命」を明らかにする福祉レクリエーション総合計画</p> <p>11 やりたいことを受け止め楽しさ追及のためにやるべきことの決定を支える</p> <p>12 対象者の思いと組織理念を含めたグループレクリエーションの計画立案とその評価</p> <p>13 ひとりひとりを支える行事・イベントの計画</p> <p>V まとめ</p> <p>14 終講試験（解説解答含む）</p> <p>15 終講試験（解説解答含む）</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>1 「楽しさの追及を支えるサービスの企画と実施」 公益法人 日本レクリエーション協会</p> <p>[参考文献]</p> <p>1 「GWT 初級アドバイザー教本」 日本 GWT 協会</p> <p>2 「福祉レクリエーション総論」中央法規出版</p> <p>3 「福祉レクリエーション援助の方法」中央法規出版</p> <p>4 「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>終講試験による成績が60点以上の者に単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

科目名 福祉レクリエーション活動援助法Ⅳ		授業の種類 演習	授業担当者 西脇 秀和（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 2学年 通年	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉レクリエーション・ワーカーとしての感性を磨き、介護実践に活用できる技術（計画から実施、振り返りまで）の習得をねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>カウンセリング、コミュニケーション技法などをはじめ、対象者の障害等に適した福祉レクリエーションを実施できる技術を習得する授業である。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>要介護高齢者や障害者を対象に QOL 向上に繋がる実践を展開できる技術を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>I 対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の介入技術とは</p> <p>1 個人への福祉レクリエーション支援の構造と展開</p> <p>2 個人で楽しむレクリエーション活動の展開</p> <p>3 動機づけに用いやすい1対1のレクリエーション活動例</p> <p>II 小集団の交流を活かしたレクリエーション活動の展開</p> <p>4 対象者同士の交流を活かしたひとりひとりの満ち足りた気持ちを引き出す</p> <p>5 小集団の力を引き出し、活かしやすいレクリエーション活動例</p> <p>III 没頭できる趣味活動の発見と継続を支える</p> <p>6 生きがい活動・余暇自立促進の方法</p> <p>7 生きがい活動・余暇自立促進の展開</p> <p>IV 対象者と現場に合わせたレクリエーション活動のアレンジ</p> <p>8 レクリエーション活動の特性の把握と活動分析の考え方</p> <p>9 レクリエーション活動のアレンジと創作の実際</p> <p>10 アレンジのポイント</p> <p>11 アレンジポイントを活かしたレクリエーション活動例</p> <p>12 イベントで使えるレクリエーション活動（バルーンアート）①</p> <p>13 イベントで使えるレクリエーション活動（バルーンアート）②</p> <p>V まとめ</p> <p>14 終講試験</p> <p>15 終講試験</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>1 「楽しさの追及を支えるための介入技術」 公益法人 日本レクリエーション協会</p> <p>[参考文献]</p> <p>1 「福祉レクリエーション総論」中央法規出版</p> <p>2 「福祉レクリエーション援助の方法」中央法規出版</p> <p>3 「福祉レクリエーション援助の実際」中央法規出版</p> <p>4 「声かけ・応答ハンドブック」中央法規出版</p> <p>5 「続 声かけ・応答ハンドブック」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>終講試験による成績が60点以上の者に単位を認定する。</p>	